

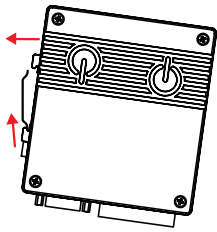
安全にご使用頂くため、SITEMANAGERをインストールする前には以下の注意事項を十分にご理解ください。

SiteManagerは、以下の一般的な注意事項を遵守している場合には安全にご使用いただけます

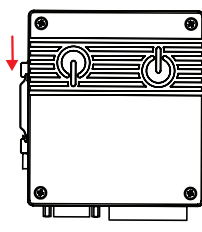
- SiteManagerを設定する前に、必ずこの初期セットアップガイドをお読みください。
- SiteManagerの安全証明へ対応するには、アクセスが限定された場所に設置する必要があります。
- SiteManagerを取り付ける場合は、表面が乾燥し、換気の良い、直射日光が当たらないことを確認してください。
万が一、SiteManagerが濡れたり水気を帯びたら、すぐに電源供給を停止し濡れた箇所や水気を帯びている箇所に十分に注意してください。また、SiteManagerの故障や誤動作の原因となり安全性が保たれません。
- 極端な温度環境や熱または冷却源に近い場所とSiteManagerを使用しないでください。
- 常に埃や汚れを避けてください。
- 分解してはならない。また許可しない限り、その他の方法でSiteManagerを改ざんしないでください。
- SiteManagerに電力を供給する際には、定められた電源以外を使用しないでください。
- SiteManagerには、老朽化していたり、また保守点検されていない電源を使用しないでください。
- SiteManagerに供給されている電力が低い場合、SiteManager本体、または接続したUSBデバイスは正常に機能しない場合があります。
- SiteManagerの設置と設定に際しては、適切な知識と技術をもった人が実施してください。
- 未認証の機器を接続したり、接続を試みたりしないでください。
- SiteManagerは、脆弱性への対応や新機能を搭載している最新のファームウェアを常にインストールしてください。
- SiteManagerに使用するケーブルは、新品および保守点検されたものをご使用ください。
- 定期的な点検を実施し、必ず外観の破損およびSiteManagerに問題の兆候がないことを確認してください。外観が破損している、または問題の兆候ある場合はすぐにSiteManagerの使用を停止し取り外します。

A DINレールへのマウント

① 図のようにSiteManagerを下側からDINレールへはめ込みます。そのまま上側へ押さえつけながら上側をDINレールへはめ込みます。



② 手を離し、SiteManagerがレールにしっかりとハマっているかを確認します。

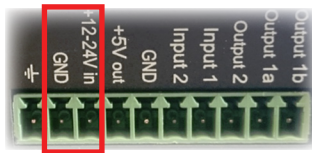


B 電源

SiteManagerには、12-24V DCを供給する必要があります。消費電力は最大6Wです。(xx39モデルの内蔵モデム、あるいは、xx29/xx49モデルのオプションUSBモデムを含む)

電源は、GNDと+Vだけに接続してください。

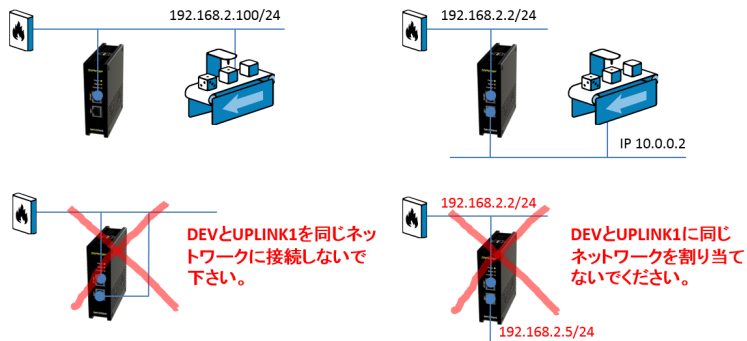
インターフェースのノイズを低減するために、アース接続を推奨します。



C イーサネットポート

インターネットへのアクセスが可能なネットワークスイッチから、イーサネットケーブル(ストレートあるいはクロス)を使ってUPLINK1ポートに接続します。

DEVポートは、UPLINK1ポートとは別の既存のネットワークに接続することができます。あるいは、UPLINK1とは別のネットワークを作成することができます。UPLINK1ポートに接続すれば、UPLINK1側に接続された機器だけにアクセスできます。



D インターネットへアクセスするためにUPLINKポートの設定

SiteManagerは、インターネット上のGateManagerへアクセスするために、UPLINKポートからインターネットへのアクセスが必要です。初期設定では、DHCPとなりIPアドレスは自動的に割り振られます。もちろん、IPアドレスを手動設定することも可能です。さらに、UPLINK2を経由してUSBモデムを使うこともできます。

以下の4つのいずれかの方法にてUPLINKポートを設定します。

- Secomea Appliance Launcherを使う。
 - 以下のURLよりAppliance Launcher toolをダウンロードし設定用PCにインストールします。
<http://info.secomea.com/appliance-launcher>
 - SiteManagerのDEV1ポートがUPLINK1ポートにいずれかをローカルネットワークへ接続しSiteManagerの電源を投入します。SiteManagerと設定用PCは、同じサブネットに設定する必要があります。あるいは、SiteManagerと設定用PCを直接イーサネットケーブルで接続することもできます。
 - 電源投入し約1分ほど待ちます。
 - 設定用PCでAppliance Launcherを起動し、起動した最初の画面において、SiteManagerが表示されていることを確認します。もしここでSiteManagerが表示されない場合は、Searchボタンを数回押して下さい。(注意: Appliance Launcherは、設定用PCがプライベートIPアドレスで設定されている場合にのみSiteManagerを表示します)
 - 設定ウィザードに続けると、UPLINK1のアドレス設定を固定IPアドレスにすることもできます。またさらに、UPLINK2は、内蔵WiFiや別売のUSB WiFiモジュールのSSID/WiFi Keyやブロードバンドモデムの設定となります。
- 初期設定のIPアドレス(10.0.0.1)を使う。
 - SiteManagerのDEV1ポートと設定用PCをイーサネットケーブルで接続します。
 - 設定用PCのネットワーク設定を変更します。IPアドレス 10.0.0.2 サブネットマスク 255.255.255.0
 - SiteManagerの電源を投入し約1分ほど待ちます。
 - 設定用PCからブラウザを起動し、https://10.0.0.1にアクセスします。
 - ログイン名は、「admin」となり、パスワードは、SiteManagerのMACアドレス(製品ラベルに印刷されています)を入力します。
 - メニューからSystem --> UPLINK1を選択し、UPLINK1のIPアドレスを設定します。また、UPLINK2は、内蔵WiFiや別売のUSB WiFiモジュールのSSID/WiFi Keyやブロードバンドモデムの設定となります。
 - Section EのGateManager設定に進んで下さい。
- DHCPサーバを使う。
 - SiteManagerのUPLINKポートをローカルネットワークに接続し電源を投入します。
 - 約1分ほど待ち、DHCPサーバからIPアドレスがSiteManagerにアサインされます。
 - DHCPサーバにて、SiteManagerにアサインされたIPアドレスを確認します。
 - 確認したIPアドレスをブラウザに入力します。(例: https://192.168.4.113)
 - ログイン名は、「admin」となり、パスワードは、SiteManagerのMACアドレス(製品ラベルに印刷されています)を入力します。
 - メニューからSystem --> UPLINK1を選択し、UPLINK1のIPアドレスを設定します。また、UPLINK2は、内蔵WiFiや別売のUSB WiFiモジュールのSSID/WiFi Keyやブロードバンドモデムの設定となります。
 - Section EのGateManager設定に進んで下さい。
- USBメモリスティックを使う。
 - GateManagerにログインし、SiteManagerを設置すべきドメインを探します。
 - USB Configuration をクリックし、UPLINK1とUPLINK2を設定します。もしSiteManagerが、DHCPサーバを持つローカルなイントラネットに接続しているならば何も設定する必要がない。
 - Createをクリックし、設定ファイルを作業用PCに保存します。
 - 保存した設定ファイルをFAT32でフォーマットしたUSBメモリスティックへコピーします。
 - SiteManagerの電源を投入し、SiteManagerが起動完了するまで待ちます。(STATUS表示の点滅が停止するまで)
 - USBメモリスティックを挿入し、SiteManagerが自動的に再起動するのを待ちます。その後、SiteManagerがGateManagerへ接続できると、STATUS表示は緑色に変わります。
 - USBメモリスティックを取り外します。

E GateManagerサーバへの接続設定

- SiteManagerのWEB GUI画面において、GateManager --> Generalを選択する。(Appliance Launcherを使った場合は、以下の設定はウィザード内で実施済みです)
- SiteManagerが接続するGateManagerのIPアドレスと、SiteManagerが表示されるドメインのDomain Tokenを入力します。これらの情報は管理者様があるいはSiteManagerを受け取った際に入手しているはずでです。
- これらの設定を入力した後、SiteManagerを再起動する必要があります。STATUS LEDが緑色に点灯すれば、SiteManagerはGateManagerに接続されています。
- GateManagerに接続することができれば、SiteManagerのWeb GUI画面は、GateManagerコンソールまたはLinkManagerクライアントを使用することでアクセスできます。DEVポートなどのエージェント等を行います。
- 詳細なガイドや新しいファームウェアなどは、サポートサイトをご参照ください。
<http://support.secomea.com>

F LED表示

LED表示について以下の表をご参照ください。Power LEDは電源が供給されると緑色です。

状態(全モデル共通)	STATUS	CONNECT
起動処理	赤色 一定間隔の点滅	-
GateManagerに接続中、あるいは切断	赤色 2回点滅	-
-リモート管理は、INPUT1またはSite-ManagerのGUIで無効になっています。 -SiteManagerはSMSウエイクアップモードです。	-	緑色 無点灯+2回点滅
GateManagerに接続しています。	緑色 点灯	-
-UPLINKは物理的に切断されています。 -SiteManager内のGateManagerに関する設定に誤りがあります。 -設定されたGateManagerのホスト名に誤りがあるか、DNSサーバの設定に誤りがあります。	赤色 点灯	-
LinkManagerが接続しています。	-	緑色 点灯

状態(モデル xx49のみ)	UPLINK2
-WiFi SSIDに誤りがあります。 -SSIDが設定されていますが、WiFi Key設定に誤りがあります。 -SSIDとWiFi Keyが設定されていますが、合致するアクセスポイントが見つかりません。	Off
WiFi SSIDが見つかりましたが接続出来ません。WiFi Key設定に問題がある可能性があります。	緑色 2回点滅
WiFi接続に成功しました。	緑色 点灯

状態(モデル xx39のみ)	UPLINK2
SIMカードがありません	Off
SIM PINコードに誤りがあります。	緑色 3回点滅
SIM PINコードは正常ですが接続出来ません。(SiteManagerのGUI画面からさらに情報を得てください)	緑色 2回点滅
GPRS接続(接続速度 低速)	緑色 点灯+1回点滅
3G接続(接続速度 高速)	緑色 点灯
SiteManagerはSMSウエイクアップモードです。	緑色 無点灯+2回点滅

注意：新しいLED状態を反映するために少し時間がかかることがあります。例えばGateManagerの切断はGateManager上のキーアライブ間隔の設定に応じて、反映されるように4分程度かかることがあります。

G USBポート (製品にはUSBケーブルは含まれていません)

USBポートは、USBに対応できるPLCやインターネット接続のためのUSBブロードバンドアダプター(別売)を使うことができます。

注意：USBポートは、USB 2.0標準に従ってUSBコネクタにつき500mAまで周辺装置のために電力消費を制限します。

H IOポート

Digital Inputポート1 Inputポート2: OFF(インアクティブ)は2.34V以上、ON(アクティブ)は、0.16V以下、0.16Vと2.34V間の入力電圧に対する動作は未定義です。10kΩのプルアップ抵抗が3.3Vで、接続されていない入力ポートが「OFF」です。Inputポート1は初期状態でGateManagerアクセスを切り替えるために割り当てられています。リモートサービスが許可するとき、単純にスイッチのオンオフに接続によって制御することができます。

Relay Output 1: Outputは、両方のピンが分離されて時 オフ、ショートする時 オン「デュアルのピン」ポートです。Outputポート1は、初期状態でLinkManagerが接続されているときにアクティブにするように設定されており、デバイスがサービされていることをユーザに通知ランプを点灯するために使用することができます。シンク電流は0.5Aで最大電圧は24Vです。

Digital Output 2: Output2は、「シングルピン」ポートである。GNDがあればオンです。そして、高インピーダンス時オフです。ポートは、「open drain」の一種で、電圧がポート自身より出力されません。(ちょうどスイッチのように)しかし、外部ソース(最大24V)、またはVoutピン(5V)から供給されなければならない。「OFF」(インアクティブ)では、インピーダンスは最小24MΩです。「ON」(アクティブ)で、インピーダンスは最大0.5Ωです。最大シンク電流は0.2Aです。

アプリケーション・シナリオについては、「IOポートを使用した作業」ガイドを参照してください。

M 法令

製品の適合規格：CE (EN 61000-6-2, EN 61000-6-4, EN 301 489-1, EN 301 489-3)・FCC 47 cfr part 15・UL Listed (file #E358541, ITE 4ZP8)・IEC CB certified (DK-30193-A2-UL)・RCM Compliant・Japan Tele MIC (007-D160018007) (xx49 models)

注：この機器は、FCC規則のパート15に準拠するクラスAデジタル装置の制限に準拠しています。これらの制限は、商業環境で動作させた場合、有害な干渉に対して妥当な保護を提供するよう設計されています。この装置は、生成、使用、および無線周波エネルギーを放射することができ、そしてそれは取扱説明書に従って設置および使用されていない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地でこの装置の動作は、ユーザが自己責任で干渉に対処するために必要とされる場合に有害な干渉を引き起こす可能性があります。

- 本装置は有害な干渉を引き起こさないことがあります。
 - このデバイスは望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したすべての干渉を受け入れなければならない。
- 内蔵Wi-FiLANモジュール (モデル1149および3349のみ)
- IEEE 802.11 b/g/nをサポート 2.412 - 2.462 GHz の帯域を使用する。IEEE 802.11g/n の最大出力は15dBmで、IEEE 802.11b の最大出力は17dBmです。
 - モジュールはFCC証明ID「QOQWF111」にリストされる。FCC/ICに完全に従うためには、接続されたアンテナの最大の利益は、2.0 dBmを越えてはならない。
 - モジュールが必須条件であり、R & TTE 指令の他の関連要件に準拠している (1999/5/EC)。
 - モジュールは、以下の標準および/または基準を立てる文書に従ってある：安全：EN 60950-1:2006+A11: 2009+A1: 2010+A12: 2011, EMC: EN301 489-1/17,スペクトル：EN 300 328 V1.8.1 (2006-10)
- 内蔵ブロードバンドモジュール(モデル1139と3349)
- モジュールがPTCRBとFCCが承認しました。FCC/ICに完全に従うために、以下の条件は満たされなければならない：A) アンテナと使用者の身体との間に20cm以上の分離距離で常に維持されなければならない。B) ケーブル損失をモバイルの露出条件に含めている接続されたアンテナの最大の利益は、携帯電話のバンドの3.5 dBmを越えてはならない。
 - モジュールは、R&TTE Directive (1999/5/EC) の重要な必要条件と一致してあります。
 - モジュールは、以下の規格および/または規範文書に準拠している：安全性：+A11 2006：EN 60950-1 2009、EMC：EN 301 489から1/-7/-24、ラジオ：EN 301 511、EN 301 908-1/-2

第十二条 型式認定合格の低功率射頻電機、非許認可、公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。第十四條 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

I シリアルポート (製品にはシリアルケーブルは含まれていません)

SiteManagerは、完全なフロー制御をサポートしたRS232シリアルポートが装備されています。DB9コネクタのピン配置は、PCの標準シリアルCOMポートに対応しています。接続には通常のNULモデムケーブルを使用可能と思われます。
-オムロンPLCには、XM2S-09ケーブルを使用します。
-シーメンスMPIまたはPPI接続使用に、RS232に-MPIアダプター、USBに-MPIアダプターまたはイーサネットに-MPI/PPIアダプター (Secomea p/n 26940) -その他PLCのための特別なシリアル接続については、PLCのため文書を参照してください。

J ブロードバンドモデム(UPLINK2)経由でのインターネット接続

注意：xx39モデルはブロードバンドモデムを内蔵しています。xx29モデルは別途4G/3G/GPRS USBモデムが必要となります。SiteManagerは多くのUSBモデムのためのドライバーを内蔵しています。動作しない場合は、弊社WEBサイトのUSB互換リストをご参照ください。

ブロードバンドモデム接続についてはUPLINK2を参照します。SiteManagerはデフォルトで常にイーサネット接続 (UPLINK1) を使用し、UPLINK1でインターネット接続が失われた場合にのみUPLINK2を使用しています。接続がUPLINK2で確立されると、UPLINK1への切替は、次の再起動時に試行されるが、または、UPLINK2でインターネット接続が失われた場合に切替えが行われます。

SiteManagerのSystem > UPLINK2メニューにおいて、SIM PINコードを入力する必要があります。SiteManagerは、自動的に内部データからAPN (アクセスポイント名) を検出しますが、手動でSiteManagerのGUIをより入力することができます。

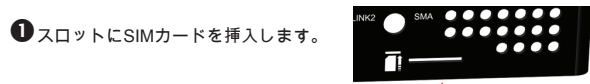
モデムまたはSIMカードにPINコードがない場合は、SiteManagerでUPLINK2他の構成を行う必要はありません。(PINコードは、標準的な携帯電話に挿入することによってSIMカードから削除され、携帯電話の削除SIMカード機能を使用することができます)。

データトラフィックを削減するためには、アイドル状態の場合は、ブロードバンド接続がスリープモードに入るようにUPLINK2を設定することができます。接続はSMSを送信すると再確立されます。

以下に説明するように、USB無線LANアダプターを使用している場合、ブロードバンドアップリンクが無効になっていることに注意してください

SIMカードの挿入(xx39モデル)

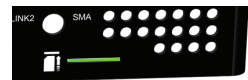
① スロットにSIMカードを挿入します。



② ドライバーのような先端の尖ったものでSIMカードをスプリングロックのクリックがあるまで押し込みます。(おおよそ2mm)



③ SiteManager筐体面と同一まで押し込んでいることを確認してください。



K WiFiを使ったインターネット接続(UPLINK2)

xx49モデルはWiFiクライアントモジュールが内蔵されています。その他のモデルは、Secomea USB WiFiアダプター(P/N 27250)を使用します。

WiFiでの接続は、UPLINK2となります。WiFiクライアントを使用可能にする時、SiteManagerは、SSID「sitemanager」、WiFiキー「MACアドレス」として接続を試みます。変更するには、System --> UPLINK2から可能です。

注意：USB WiFiアダプターを接続すると、UPLINK2のために使用される内蔵無線モジュールが無効になります。

L USB WiFiアダプターでの、WiFiアクセスポイント(AP)設定

xx49モデルは、Secomea USB WiFiアダプター(P/N 27250)を使って、WiFiアクセスポイント(AP)として設定可能です。

APモードでのSSIDとWiFiキーは、System --> DEV1で設定できます。

注意：USB WiFiアダプターを接続すると、UPLINK2のために使用される内蔵無線モジュールが無効になります。